

「北極圏鉄道紀行 (3)」

イエリバーレからキルナまでの区間は、針葉樹の森と、湿原地帯を進みます。夏は小さな湖が点在する地帯ですが、冬は凍った雪原です。その中にいくつかある街は、極夜の北極圏にあって、まるで光のオアシスのようです。



列車はキルナ駅に到着しました。ここには、「キルナ・バーラ」という、露天掘りの巨大な鉄鉱石の鉱山があります。線路も、キルナ鉱山、スバツパバーラ鉱山などに向かって、分岐して延びています。そんな街を象徴するように、ホームには、線路を運ぶ鉄道員のモニュメントがあります。



ストックホルムから乗ってきた旅行者も、ここで結構降りました。また、ここから乗る人もいて、たくさんの乗客が入れ替わりました。この駅（キルナ中央駅）からは、有名なアイスホテル行のバスやタクシーが発着しています。



キルナ郊外の、ユッカスヤルビの湖畔にあるアイスホテルです。ユッカス湖の氷で、毎冬、新しく建造されます。夏には跡形もなくなります。(2001年撮影)



内部は宿泊可能です。ただし、ベッドも氷でできていて、その上にトナカイの毛皮を敷いて寝ます。寒い！



キルナでは、機関車を交換し、列車の向きも変わります。その為、20分ほど停車。残念ながら駅弁はナシ。